

会 議 録

1 会議名

令和7年度第1回谷浜・桑取区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【自主的な審議】

- ・自主的審議について（公開）

3 開催日時

令和7年5月27日（火）午後6時30分から午後7時10分

4 開催場所

上越市立谷浜・桑取地区公民館 大会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）

- ・委 員： 坪田会長、横田副会長、安達（麻）委員、笠原委員、京谷委員、佐藤（和）委員、佐藤（幸）委員、白滝委員、田村委員、中原委員、番場委員（欠席者1名）

- ・事務局： 北部まちづくりセンター 内藤所長、勝島副所長、石崎係長、丸山主任

8 発言の内容

【勝島副所長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【坪田会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：中原委員に依頼

議題【自主的審議】自主的審議について、事務局へ説明を求める。

【丸山主任】

・資料No.1「令和7年度第1回谷浜・桑取区地域協議会 自主的審議について」に基づき説明

今日は時間が限られているので、市の支援事業についての質問や意見は、個別にお伺いしたい。ここまでの話を聞いて、お住まいの町内会や谷浜・桑取区を見渡したときに、地域協議会委員の皆さんに共有したいことがあれば、この場で発言をお願いします。

また、今後の地域協議会の進め方としては、冒頭の5つのテーマについて、1つ1つ情報収集しながら、地域協議会として取り組んでいくものを深めていってはどうかと思う。

【坪田会長】

谷浜・桑取の現状、私たち12人の委員間で共有したいこと等、意見を交換してお互いに情報共有したい。

【白滝委員】

「空き家情報バンク」について、今までの問合せやHPへのアクセスデータはあるか。

【丸山主任】

今日は持ちあわせていない。担当課に聞けばデータとして、今までの空き家情報バンクHPへのアクセス状況などが出てくると思う。

【白滝委員】

そのあたりの情報を見せたい。本当は市でデータを解析して、今後もう少し違ったアプローチや「空き家情報バンク」の内容を改善してほしいと思う。今後、谷浜・桑取区について情報を知りたい人に、確実に情報を届ける仕組み作りが必要だと思う。

【京谷委員】

私は15年前にこの地区が好きで引っ越してきた。移住に関しては、とてもハードルが高くて、今日紹介された移住支援資料のようなものが15年前にあれば、とても助かったのというのが本音である。

移住に役立つ資料ではあるが、具体的な連絡先の情報が掲載されていない。「空き家情報バンク」は大変良い取組だと思い、二次元バーコードを読み込んだところ、谷浜・桑取区で掲載中の物件は、室内に物が散乱している写真で、よい印象が持てなかった。価格350万というのは都会の感覚でいえば安いのだが「この物件には住めない」という気持ちになった。

資料No.4「移住者の受入れに取り組んでいる町内会・自治会のご紹介」冊子は町内活動の共同作業の実施状況なども書いてあって大変いいのだが、ここに住みたいと思った人が、資料に掲載されている二次元コードにアクセスすると、「空き家バンク」のサイトにつながるだけという状況は不親切だと思う。移住コンシェルジュのような情報がでくると親切ではないか。

十日町市は、民間の会社だが、移住コンシェルジュという人がいる。私がもし、こういう田舎暮らしをしたいとか、山間部で子育てをしたいと思ったら、サイトを検索して、やはり十日町市の情報にたどり着く。実際に十日町市は移住者も多いようであるし、きれいで安くお試し移住に利用できるシェアハウスもある。こういった取組を十日町市はバックアップしているので、いいなと思ったらすぐに移住体験に行ける感じはある。上越市にも移住コンシェルジュのような人がいて、こういうところに住みたいという相談のやり取りができると良いと思う。

私の暮らす町内は10軒しかないが、そのうち半数は移住者である。その移住者のうち2軒は私が呼んだ。今後の暮らしや集落の維持を考えて「移住しませんか」と頼めるのはやはり知り合いである。ここの土地に引っ越したい、田舎暮らしをしたい、自然の中で伸び伸び子育てしたいと思っていても、知り合いにしか頼れない状況である。若い人を呼びたければ、インスタグラムでもいいので、働き場所なども相談できるような、個別に連絡をとって相談に乗れる仕組みがあるととてもいいと思う。

【内藤所長】

上越市は「上越市ふるさと暮らし支援センター」内に「移住・定住コンシェルジュ」を置いている。多文化共生課に所属し、個別の移住相談に対応している。

【京谷委員】

インターネットの検索で、上越市の移住コンシェルジュの情報は探せなかった。

【内藤所長】

私も検索し、HPで上越市の移住・定住コンシェルジュ情報を確認している。新潟県の移住の関係のサイトでも、新潟県内の各市の情報が掲載されている。移住を希望される方は、地域で選ぶ方もいらっしゃるれば、趣味や仕事、子育て環境などで選ぶ方もいて、それぞれ重視する項目で検索できるようになっていたと思う。

【京谷委員】

資料No.4「移住者の受入れに取り組んでいる町内会・自治会のご紹介」に、「空き家情

報バンク」の二次元コードだけではなく、移住の相談窓口として「移住・定住コンシェルジュ」の二次元コードを貼り付けてもいいと思う。

【内藤所長】

担当課に伝える。

【佐藤幸太郎委員】

資料No.1「令和7年度第7回谷浜・桑取区地域協議会 自主的審議について」に挙げられている5つのテーマは、いずれも関心があるが、とりわけ学校がどうなっていくのか、くわどり湯ったり村（以下、湯ったり村）が4月に新たなスタートをしたということ、空き家対策の3つに関心がある。私の最大の関心事は湯ったり村が4月に新しい体制でスタートしたことであり、私たち地域住民の望むものと、経営者の考えているものとが、すれ違っているような、もやもやした感じがずっと私の中にある。

経営者の株式会社ゆめ企画名立が、「うみてらす名立」と「湯ったり村」を並行で経営していくという報告を受けているが、うみてらす名立は月1回の休業日で、湯ったり村はこの度の発表で、6月から週2回休業するということである。湯ったり村の休業日が増えていくことに不安を感じる。

民間企業の経営になったとはいえ、かつてのように経営者と地域住民との意見交換を行い、住民が何を求めているかということを知ってもらい、地域住民と気持ちがお互いにつながり合う中で、お客さんを呼び込み、もてなすといった方向を目指してもらいたいと思う。個人的な感想だが、なんとかできないかと思っている。

【坪田会長】

湯ったり村については、今まで地域協議会の中でもテーマに挙げて話をしたが、佐藤幸太郎委員が言うように、4月から民営化したということで、民間の事業に私たち地域協議会がどう関わっていくか、関わり方の整理が必要だと思う。

6月1日谷浜・桑取地区町内会長会議の総会に、湯ったり村の新しい責任者が挨拶に来ると聞いている。湯ったり村は、谷浜・桑取のある意味シンボルだから、この地域を語る上では何かにつけて湯ったり村の話が出てくる。そういった地域の思いを湯ったり村の責任者に伝えながら、地域協議会としても話を聞いてみたい。

委員の皆さんから了解いただければ、この地域協議会を代表して桑取地域在住の佐藤委員、横田副会長、に私を含め3人で湯ったり村へ行って話を聞いて、次回の会議の席で聞いてきた話を共有したいと考えている。

【佐藤和幸委員】

私は営業期間の半ばで休業日の曜日を変えるのは、非常に困ると思う。「くわどり市民の森」で整備作業をしているが、これまで湯ったり村の木曜休業日を踏まえ、年間の計画で水曜日に作業するというにしていた。草刈りをして汗をかいたら、湯ったり村で汗を流して帰ってくるのが1つの楽しみだったが、6月から水曜日も休業となり、それはできなくなる。なぜ水曜日を休みするのかというのが正直な気持ちである。

【京谷委員】

私は、久しぶりに今年のゴールデンウィークに湯ったり村に行って、とても変わったと感じた。明るくなったし、入りやすいし、子どもも楽しみやすくなった。食事は山菜を使った手間がかかった料理で、とても美味しかった。もっと宣伝すればいいのと思った。Instagram等で風景と一緒に写真を掲載すれば、もっと人が来ると思う。

私は自営業であるが、今、人手不足で会社が潰れる時代である。だから、湯ったり村の立地条件で従業員の確保はすごく大変だと思う。週に2日休業というのを見て、残念だとは思いますが、細く長く経営していくには、それも1つの策ではないかと個人的に思った。

【坪田会長】

休業日の件は、湯ったり村の経営そのものに関わってくる問題である。利用者目線では休業日がなくて、いつ行っても温泉に入れることが嬉しいと思うが、それぞれ経営者のいろいろな事情があると思う。とはいえ、週2日の休業は谷浜・桑取区を訪れる人の事を考えると、少し厳しいという部分もある。そういったことも含めつつ、先ほど名前を挙げた3人が湯ったり村へ行って、少し話を聞いてみたいと思う。第一段階としては、そのような形でよいか。

(委員同意)

【丸山主任】

資料No.1、1ページ目の下段に、前回第7回地域協議会の振り返りということで、「様子を見ながら地域協議会として関わっていくもの」で4つ、「地域を知る・現状を知る」で、移住・空き家対策についてというテーマを挙げ、合計5つのテーマを掲載しているところである。このテーマについて情報収集しつつ、協議会の場で、地域でこういう動きがあったというような皆さんからの情報を共有しながら進めていければと思っている。

例えば、「伝統行事等、地域で行われている行事について」は5月10日にくわどり山

菜祭りが開催されたことや、5月24日に谷浜小のスポフェスが行われたこと等、皆さんの身近にも実際に活動されている方がいらっしゃるのです、そういう場所に足を運び、どんな様子だったか、そこから地域として関わっていきたいこと、お手伝いできることなどを探りながら協議を深めてはどうか。「くわどり湯ったり村について」は、今会長からお話があったように、今の段階では協議会委員の皆さん全員と経営者と意見交換というのは難しいと思うので、地域協議会を代表者して3人が話をして、協議会の立ち位置等についてもお伝えしながら、一緒にやっていける道を見つけていければと思っている。

これらの5つのテーマについて委員の皆さんから地域をよく観察していただき、この場に来て、情報共有していただければと思う。

【坪田会長】

次回は、この5つのテーマを情報共有しつつ、会議の進行を図りたいと思っている。その他に移る。

3月27日に直江津学びの交流館にて、地域協議会の会長会議に出席してきた。その中の議題は、「地域自治推進プロジェクトにおける各検討項目の方策案等」についてだった。28の地域協議会のうち、26人が出席して話を聞いてきた。話を聞いても、全てわかったかというとなかなか難しい部分もある。会長会議があったという報告と、私が説明を受けた内容を含め、地域政策課から皆さんにも話があるということである。

事務局、何かあるか。

【丸山主任】

- ・次回協議会：7月上旬から中旬

【坪田会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 北部まちづくりセンター

TEL：025-531-1337

E-mail：hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。